

東日本大震災 聴覚障害学生災害支援本部の設置について

2011年3月11日午後14時46分に東北地方でマグニチュード9.0と世界で最大級の大地震が発生しました。被災をされた皆さまに心からお見舞いを申し上げますとともに、地震発生直後から、被災地で懸命に援助活動を行っている各自治体、関係各位、そして、自衛隊、警察、消防、海上保安庁の本当に身を惜しまない努力に心から感謝を申し上げます。

現在、関東北部で震度3の余震が続いていますが、関東ろう学生懇談会の会員は全員無事であります。また、被災地となった東北地方には東北ろう学生懇談会がありますが、会員全員無事のことを3月17日の未明に確認することが出来ました。引継ぎ、学生懇談会としては聴覚障害学生向けに正確な情報を提供していく方針そして聴覚障害学生の支援を主として活動を進めていきます。

現在、聴覚障害学生では、携帯電話所持率が100パーセントと高い確率で所持しており、メール、ツイッター等様々な方面から情報の獲得ができるようになりました。今回の大地震でチェーンメールが数多く流れ、被災地をはじめ多くの聴覚障害学生の間では大混乱が発生し、様々なデマが流れるようになりました。これらの情報が流れていく最中、学生懇談会としても正確な情報を直ちに提供していくシステムを作っていかなければいけない状況に至りました。これらについては、全日本ろう学生懇談会ホームページ「聴覚障害学生災害支援本部」のバナーがありますので、これらを参照していただければ幸いです。

現在の状況としては、聴覚障害学生をはじめ全国各地の聴覚障害者は、正確な情報を得られる状況ではありません。先ほど述べた通り、チェーンメールが典型的な例です。また、計画停電、福島原発事故、ライフラインに関する情報源をどのようにして獲得していくかが今回の地震を通して聴覚障害者の情報保障の問題が浮き上がりとなりました。これらの事例については、財団法人全日本ろうあ連盟を中心に活動している「We Love コミュニケーション運動」につながる部分が数多あります。もちろん、学生懇談会としても、本年度1年間を通して会報「一期一会」の最終ページのところに「聴覚障害学生の声」を掲載しました。これらの取り組みが全日本ろうあ連盟をはじめ数多くの聴覚障害者団体の幹部が目を通すようになり、聴覚障害学生の声が国に提供していく動きも見えてきています。

今回の大震災をきっかけに全国の高等教育機関で学ぶ聴覚障害学生の立場から情報保障の重要性を訴えていかなければいけないと思います。学生というのは大学の情報保障を主として訴えていく活動をしていますので、それらの活動につながる部分がたくさんあるのではないかと思います。是非、皆さんの力を合わせていきましょう。よろしく申し上げます。